

山の百の花

講師 大津 洋介

【69】キブシ(木五倍子)

早春のまだ殺風景な雑木林の中、いち早く咲くのがキブシの花だ。黄色の花はフジのように房になって垂れ下がり、「春が来ました」と言わんばかりだ。房全体で花をみるのもきれいだけれど、吊り鐘状の花を一つ々じっくり見ると帽子のようでほほえましい。

キブシは、地方によってキフジとも呼ぶそう。なるほど、垂れ下がって咲く花はフジのようだ。キフジが訛ってキブシとなったと思っていれば、どうもそうでないらしい。ヌルデ(ウルシ科)の虫えい(寄生した虫によってできるコブ)を五倍子(ふし)と呼ぶそうで、昔、それでお歯黒を染めていた。この代用としてキブシの実を使っていたことからこの名前がついたらしい。名前の由来はなかなか難しいものです。

今年も、早春の山で一番最初にみた花はキブシだった。大月の殿平までの道には、大きな木となつてたくさんの花が咲き、草戸山では、ちよつとした急斜面に張り付く

ように咲いていた。高尾山の蛇滝までの人家の庭先には、強烈な黄色の大きな花をみた。浅間嶺では、雑木林に点々と咲いていた。そんな姿を見てやつと春が来たんだなと嬉しくなった。そして、夏にはどこの山に登ろうかと考えていた。



【70】マメザクラ(豆桜)

下界でのお花見が一段落する頃、丹沢の鍋割山に登った。大丸への尾根道の本々はやつと芽が出始め、山にもようやく春が到来というところだ。ゆっくり、尾根道を登

るとまばらに花を付けているサクラの木を見かけた。ヤマザクラにしては、小さい花で、花の密度も少ない。よくみると枝に垂れ下がるように花が付いている。その花の付き方が、控えめで、思わず足を止めた。マメザクラだ。花が小さいので「豆桜」、何ともこもつともな名前である。富士山を中心とした周辺に分布するので「フジザクラ」の別名も持っている。ヤマザクラのように大きくはならず、高くても7〜8m程度、木の大きさもこぶりだ。

丹沢では、この時期にいたるところで見られ、大倉尾根にも毎年花を咲かせる個体が何本かある。

この間、奥多摩の浅間嶺の山頂付近でみた。奥多摩でこの花を意識したのは初めてのようだが、木の大きさは1mそこそこで、まだヤマザクラの芽は固く閉じていたのに、小さな体に花をたくさん付けていたのには、木の生命力を感じた。

富士山の吉田口の麓、中の茶屋付近のカラマツの林の中には、群生しているそう。前々から、いい時期を見計らって一度行ってみようかと思っている。